

# びっぴだより

No.13. 2022. 3. 18

これからもわくわくと…

びっぴの子どもたちは、変わらず、楽しく、幸せそうです。子どもたちを見ていて、身体と頭と心を懸命に使い、生きている実感を深める日々の在り方が大切なのだらうと思わされます。今の教育の在り方は「学ぶことは知ること」で、なかなか行動が変わる、生き方が変わるとなっていない実情があります。自分で判断して、失敗も受け入れながら、次に進む…乳幼児期からの、そういう意識的な子育てが必要なのだらうと思います。

73歳になった私が今も、子どもたちと同じようにわくわくと生きている実感を深める日々であるのは、どこからきているのだらう。出会った人からの言葉、深く残っている言葉、育った環境を思い起こしています。

母の影響は大きかったのでしょう。母は東京の下町に生まれ、お金には困らなかったようですが、勉強したい、学びたい想いを両親に理解してもらえず、いつかいつか、学ぼう変わろうと深い願いを持っていたようです。父の転勤で、「その時」がきました。私が3歳の時に東京から離れ、北海道は室蘭に住むようになりました。馬そりが荷物を運んでいた北海道でした。私は目の前の山を走り回ったり、冬は道路をスキーで移動していたのを覚えています。快適なものが揃っているような時代ではなく、冬はお布団も干せないような気候に母は戸惑ったようですが、出会った人たちと自由に学び合い、本を読み、衣食住に関心を寄せ、先ずは家庭から変わっていきました。羽仁もと子さんの本はその頃から増えていきました。「ひと仕事、ひと片付け」「家庭は簡素に、社会は豊かに」…母を通して「生活しつつ、思想しつつ、祈りつつ」の姿勢に私も出会っていきました。お菓子がいろいろ売っている時代でもなく、母の手作りのおやつがあったことや、手作りのホワイトソースやブラウンソースなどで育ちながら、家庭って何?、をたくさん感じてきたように思います。

大阪府豊中市に移ったのは小学4年生でした。母の学ぶ機会や環境も増えましたが、妹ピンク、弟ブルー、私は黄色のお皿に手作りおやつと手紙は変わらず、毎晩の美味しい夕食がありました。小学生の時からおこづかい帳をつけていたのは、今、結婚して50年、50冊目の家計簿に繋がっています。学校の先生に怒られて、「おまえが悪いことをしたからでしょう」とどこの親も言い、先生と親が結託していました。健全な在り方ですね。先生も一緒に、学校に泊まったり、日曜日に遠出をしたり…その責任を問う人はいませんでした。東京に住まいを移してから、母は保護司の仕事に力を入れていましたが、家庭内でも家庭外でも生き生きと働いていました。自分の育った環境から這い上がりたかった母、歌舞伎・宝塚歌劇・バレエ公演…よく連れていってくれ、「大学までは面倒みるよ」とよく言われました。心をいつも抱きしめてもらっていたけれど、抱き上げてもらっていた記憶があまりないのです。母は意識していなかったかもしれないですが、絶妙の親子の距離感を作ってくれていたように思います。

幼児教育に関わる仕事かアナウンサーになりたかった私は、大学の児童学科に入り、放送文化研

究会に属し、僻地に人形劇をしに行ったり、NHKの「おかあさんといっしょ」の台本を書いたり、パイプオルガンを弾いていた…大学の学びだけでなく、仲間と多忙な日々の4年間でした。授業の中で強烈だったのが、今井先生（お姿やお顔は覚えているのに下のお名前が思い出せません）の家政学でした。「家庭の中の衣食住や教育、一つ一つが学問であり、考えることが必要。賢くないと深い家庭生活は営めないんだ」と語られ衝撃的でした。家庭を持つことが待ち遠しくなりました。

児童学の専門の勉強が面白くなり、津守真さんや丸木政臣さんの教育の考え方に惹かれて、アナウンサーではなく幼児教育に携わろうと決めました。横浜の幼稚園に勤め、結婚して北九州に移りました。仕事を辞めて家庭に在ることを選択したのは、自分の手で子育てをしたい気持ちが大きかったのは事実ですが、家庭のいろいろな仕事に誇りを感じられたからです。今井先生の影響は大きかったですね。衣食住を楽しみ、家庭文庫を開き、たくさんの近所の子どもたちがわが家に集まっていたのはわが家の子どもたちにも好影響があったようですし、その後私自身が忙しくなっから、地域の方々にたくさん助けて頂くことに繋がりました。

福音館書店を創設された松居直さんと出会ったのは、結婚15年後に東京は杉並の幼稚園に復帰した時です。松居直さんが幼稚園の理事でいらしたことや同じ教会に通っていたこともあり、久我山の松居直さんのお宅にお邪魔することが多くなりました。なぜ、福音館書店を作ったのか、父親の目線での絵本の面白さをたくさん知ることになりました。林明子さん、堀内誠一さん、渡辺茂男さん、山脇百合子さん…にお目にかかったり身近に感じながら、絵本の世界に浸っていました。「幼児期に育つ根強い想像力は、耳から豊かな言葉の体験を繰り返すことによるのみ養われる」と繰り返して語られました。私が今、目の前の子どもたちと絵本を共有する時間を大切に思え、子どもたちが喜びと想像の翼を持つことを願いながら、子どもたちの顔を思い浮かべながら、毎日、一冊一冊手渡す絵本を選んでいるのは、松居直さんから受け取った深い想いです。

そして、森との出会い…森という場が強力な助っ人になってくれました。閉じられた空間でないこと、場のなりゆきにゆだねやすいことは、子どもたちと同様に、自分の感情を十分に感じ、味わい、吸い取ってもらい、何らかの形で放す…。森の力で肩の力を抜いて、ありのままに、余裕を持つ感覚に気付きました。これからも子どもたちと一緒に森に助けてもらいながら森での時間を大切にしたいと思います。

匠彌くん、野花ちゃん、慈くん、柚葉ちゃん、咲知ちゃん、天音ちゃん、大智くん、瑛太郎くん、エマちゃん、柊治くん、ご卒園おめでとう！想像したものを器用に創り出して、遊びを豊かにしていた日々…ガムテープ、画用紙、折り紙、羊毛などの消費はお見事でした！ぼろびっぴで続きができるのが楽しみ…。

おおくりの保護者の皆さま、共に歩んで下さってありがとうございました。びっぴ家族としてこれからもずっと繋がってくださいね。

くり・まつぼっくり・どんぐりの保護者の皆さま、この一年も嬉しい言葉や、さりげない力や、陰ながらの応援をありがとうございました。子どもたちが一つ大きくなることを喜びに感じているように、私たち大人も、新しい一年を柔らかい心で、喜び溢れるように年を重ねていきましょう。

4月7日木曜日、びっぴの森でお待ちしております。

：真弓

# 森のみちくさおいしいお話 最終号

4月から1年間、びびの森や野原でみられる、食べたり 飲んだりできる樹木や野草をご紹介してきました。森自身、自然を好きにならなごきかけ(たぶん思も...)が食べられる(笑)ということだったので、少しでもみなさんに興味をもっていただけにうらやまとお届けしてきましたが、いかがだったでしょうか？

今回は最終号。織物をしている子どもたちに作り湯を

受けて、虹色でびびの森で  
みられるおいしい野草達  
をふりかえりつつ、ご紹介  
していきます。さっと

子どもたちの日々の遊びでも

たぐばん  
登場  
したと  
いう。

こんど  
植物たちとまつけたら

びびの森の日を、

友達とすごした  
時を思い出  
してくれたら...

あたたかかな。

優しい気持ちに包まれるといいな  
と思います。

森の生きもの達が、植物

たちが、みんなさんにとって、これから

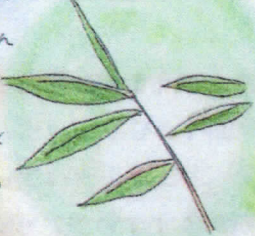
そんなお話をしつづけてもつたなら嬉しいです。

1年間ありがとうごさいます！

また、こんなこと知りたいたい！ 生えている所を一緒にみたい！ 写真をお気軽に声をかけて下さいね！ そして、来年度は、森の中でおきている子育ての、親子の小さな物語と月ごとに伝えていけたらと思っています！ : 葉は東

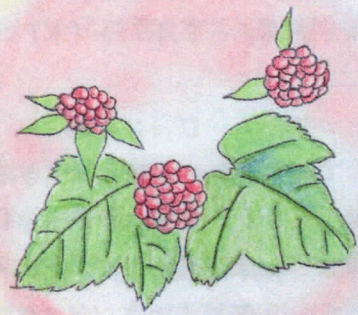


**タコウバイ (黄)**  
花: 3-4月  
葉は美しい黄葉に  
花、枝、葉すべてお茶に。

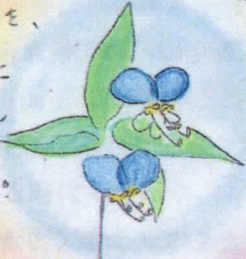


**ギボウシ (ウイ) (黄緑)**  
5月頃の新芽が  
おいしい。ゆでておひたしに  
花は7月頃

**クマザサ (緑)**  
春にできる新芽はびびの子どもたちの  
おやつ?  
さわやかで飲みやすいお茶に。  
粉にして、クッキーやマフィンにも。



**赤 クマイチゴ: 7月果実**  
みんなさん  
食べたりかた?  
赤く光る実は森の  
宝石のよう。



**ソユクサ (青)**  
梅雨? 露? どちらでしょう。  
青く美しい花はエディブルフラワーに  
葉も少しゆめりがあり、おいしいです。

**カキドオシ (うす紫)**  
4月、花の咲く頃に摘んでそのま  
まサンドイッチやサラダに  
干してお茶にすればリラックステアに♪



**ヤマグワ (紫)**  
子どもたちも大好き! 実は疲労回復  
効果が! 葉も新芽はスープやおひたし  
GABAが含まれ木葉も♪

ありがとう

